



学校だより



9月号

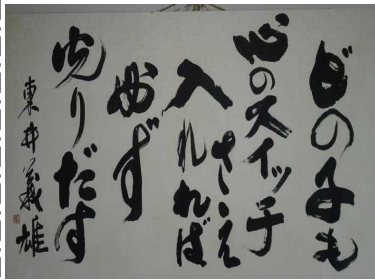
藤枝中央小学校
令和4年8月31日



心のスイッチ

校長 飯塚 稔文

長い夏休みが終わり、久しぶりに子どもたちの元気な笑顔を見ることができました。学校にも活気が戻り、子どもたちの元気な声が響いています。今後も教職員一同中央小学校の子どもたちのために力を尽くしますので、引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



さて、本校の来客用玄関の壁にこの額が掲げられています。20年ほど前に当時の校長先生が知り合いの方に依頼して書いてもらったもので、以来本校への来客を玄関で迎えてくれています。ちなみにこの言葉の作者である東井義雄さんは、次のような詩も遺しています。

「心のスイッチ」 東井義雄

人間の目は ふしぎな目 見ようという心がなかったら 見ている 見えない
人間の耳は 不思議な耳 聞こうという心がなかったら 聞いている 聞こえない
頭も そうだ
はじめから よい頭 わるい頭の 区別が あるのではないようだ
「よし、やるぞ！」と心のスイッチが入ると
頭も 素晴らしいはたらきを始める
心のスイッチが 人間をつまらなくもし すばらしくも していく
電灯のスイッチが 家の中を明るくし 暗くもするように

夏休み明けは気持ちを切りかえるという意味を込めて、子どもたちには「心のスイッチを入れよう！」という話をしました。この「心のスイッチ」は人に入れてもらうよりも自分で入れることが大切です。しかし、目標を持って自分で「心のスイッチ」を入れることができる子もいますが、一方で、周りの誰かの一言によって心にスイッチが入る子もいます。実際に私自身、小学生時代に、長距離走の練習をしていたときに、先生からの言葉によってスイッチが入り、苦しくても自分に負けない強い意思を持って練習に励むことができたという経験があります。（その言葉は今でも困難に立ち向かうときの私自身の支えになっています。）

「心のスイッチ」は自分で入れることが望ましいとは思いますが、周りの大人や仲間の一言が「心のスイッチ」を入れるきっかけになることもあります。夏休みが明け、なかなか自分では「心のスイッチ」が入らない子もいるでしょう。そのような子に対してタイミングよく適切な支援ができるよう私たち教職員も子どもに寄り添って支援していきたいと考えております。ご家庭におかれましても「心のスイッチ」が入る温かな一言、声かけをよろしくお願いいたします。